

杜の家せんだい

ニュースレター 1/2



Vol. 06

2019年6月号

【発行】
仙台市家庭教育支援チーム
杜の家せんだい

第1回家庭教育フォーラムを開催しました。

杜の家せんだい主催 第1回家庭教育フォーラムは「いじめ問題と家庭・学校・行政との連携」をテーマに2019年4月21日(日)仙台市戦災復興記念館にて開催いたしました。

第一部は、仙台市いじめ問題等調査特別委員会の理事である菊地たかよし市議より「家庭・学校・行政とどう連携すべきか」の題目で講演して頂きました。

また、続く第二部では各界の有識者にお集まり頂きパネルディスカッションを行いました。

今回のフォーラムでは定員の60名を超える方々にご参加頂き、質問コーナーでは会場からの活発な質問も寄せられ、本テーマに対する関心の高さがうかがえました。

(※)開催内容の詳細については、本ニュースレターの2枚目をご覧ください。



参加者の皆様の声

セミナーについて

- ◆いじめ問題は各家庭でも子供がエネルギーを貯められる状態が大切だという事が解りました。夫婦仲良く・これが一番大切だと思います。我が家も努力中です。
- ◆いじめる子9割・いじめられる子9割と聞いてびっくりしました。
- ◆いじめ問題についての話から最後は防災と地域のつながりを通して学校と家庭を巻き込んだコミュニティに希望を感じました。
- ◆子供は結局親や大人を見て育っている事を思うと、大人や親のモラルの質が上がらなければならないと感じました。
- ◆いじめに対する仙台市の状況を詳しく聞くことが出来て良かったと思います。自分もPTAや地域に積極的に関わりを持って行きたいと思いました。
- ◆コミュニティの大切さを改めて知ることが出来たので、自分に出ることを考えていきたいと感じました。
- ◆いじめ問題について真剣に考え取り組んでいる方がいると分かって有難かったです。
- ◆菊地先生、ガンガン子供たちの為に活動して欲しいです。
- ◆防災訓練を通して地域と学校の連携をはかるというのはとても良いアイデアだと思います。

パネルディスカッションについて

- ◆各先生方の熱い思いを感じ感銘を受けました。
- ◆子供の目を見て話を聞くことや、家庭で子供がエネルギーを貯められる関心を持つ事を教えられた。
- ◆いじめる子供(いじめっ子)の家庭背景を見てのトータルケアが大切であると思いました。
- ◆パネラーの本音の意見が聞けて良かったです。
- ◆全ての問題は家庭の在り方が大きな比重を占めていると感じました。

メルマガのご案内

「杜の家せんだい」ではメルマガ「まぐまぐ！」を利用したメールマガジンを配信しております。このメルマガでは私たち「仙台市家庭教育支援チーム 杜の家せんだい」主催の家庭教育セミナーのご案内のほか、当チーム主催のイベント情報、家庭とくらしのお役立ち情報などを発信して参ります。メルマガへの登録・変更・解除はいつでも自由に行えますので、お気軽にご登録下さい。

登録・解除はこちらでお願いします。↓
<http://www.mag2.com/m/0001681019.html>

杜の家せんだい

ニュースレター 2/2



Vol. 06

2019年6月号

【発行】
仙台市家庭教育支援チーム
杜の家せんだい

第1回家庭教育フォーラムの内容(要約)

① 講演の内容

「仙台市いじめ防止条例について」

現在いじめの定義はインターネットを含む心理的・物理的な行為によって当該生徒が心身の苦痛を感じているものとなっています。平成29年度における仙台市のいじめ認知件数は約1万4千件となっており、小学校1万2千件、中学校1770件、高校10件で、小学校が一番件数としては多いのですが、深刻なものは中学校が多いようです。仙台市ではいじめに関連した自死の事例が多発したために、市長・議会・学校・教育委員会を含めて様々な常設・臨時の委員会が立ち上げられ、手厚い対応となっています。

今回施行されたいじめ防止条例の特徴としては「自分も他人も大切に子どもを育てる／いじめを誘発する大人の行為にも注意を促す／地域ぐるみで子どもを見守り・育てる／いじめを行った子どもの心にも寄り添い再発防止策を探る／いじめ防止対策を定期的に検証して改善を図る」など大変包括的な内容となっています。特に斬新な内容としては地域ぐるみでの対応と言う部分でした。ある地域では学校の授業参観と地域の防災訓練を同時に開催したところ約2000人の参加者があり、地域の親同士の顔の見える関係が築かれた結果、学校での問題行動や不登校が減ったとのことでした。

② ディスカッションの内容など

現在のいじめ問題の背景には様々な問題が関わっていて、戦後の価値観の混乱やそれに基づく子どもたちの精神的な弱さ、家庭力の低下・愛着形成の低下、地域社会の崩壊、スマホの影響、などが挙げられました。いじめ問題に過敏になり過ぎて本来の業務である教育に取り組めず、疲弊している教育現場の姿も報告されました。あまりにもいじめ問題に敏感になり過ぎるとかえって歪んでしまう、成長過程の一環としてとらえる必要性もあるのではないかと、学校と地域の連携が必要で地域ぐるみの対応が重要である、疲弊した学校現場を支援するためには多職種による連携が必要である、などの指摘がありました。校長OBによる現職の校長へのアドバイザー制度が支援として有効が大きいとの菊地議員の報告もありました。いじめられた側の生徒に対する対応として公認心理師の方が語られた「生きるか死ぬかの瀬戸際にあるお子さんにとって家庭はエネルギーを貯める場所であってほしい。場合によっては躊躇なく学校を休ませてほしい」という言葉は参加者の胸を打ちました。